

本表に示された分野目標および年齢層別目標は、学習指導要領または同解説に示された教科等の内容を反映させているが、学習指導要領および同解説に記述されていないものもあることにご留意いただきたい。

- ・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されたものは、学習指導要領または同解説に照らして、その内容を学習する教科等を挙げている。
- ・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されていないものは、各教科における発展的な学習や、総合的な学習の時間および特別活動において実践されてきたものなどを中心にとりまとめたものである。

A 生活設計・家計管理に関する分野

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
A 生活設計・家計管理に関する分野 ア 資金管理と意思決定	使える資源には限りがある(予算制約)ことを理解する	○ものやお金の価値を知り、大切にする(生活、道徳) ○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る	○ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する(社会)	○ものやお金には限りがあることを理解し、よりよい使い方を考える(家庭) ○お金の使い方について見直ししながら、自ら節度を守り節制に心掛ける(道徳)	○財やサービスの有限性、希少性を理解し、よりよい選択をしようとする(社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>) ○時間やものを大切にすることなど、望ましい生活習慣を身に付ける(道徳)	○資源の有限性、希少性を理解し、財やサービスの購入に当たって、よりよい選択ができる(公民、家庭)
	限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身に付ける	○欲しいものが手に入らない場合に、がまんできるようになる ○予算の範囲内でもものを買うことができる	○欲しいものと必要なものの区別ができる ○お金の適切な使い方を知ることを通じて節度ある生活の大切さに気づき、実践する(道徳) ○こづかいとしてもらったお金や使ったお金の記録をつけることなどを通じて、お金を管理する	○プリペイドカードなどは金銭同様に大切に扱う必要があることを理解する(家庭) ○必要性を考えて、計画を立て、それに沿って買い物ができる(家庭) ○商品の選び方を知り、工夫して買い物ができる(家庭)	○多様な支払い方法に応じた計画的な資金管理の必要性を理解する(技術・家庭<家庭分野>) ○家計の収入・支出について理解する(技術・家庭<家庭分野>) ○自分に必要なものやサービスの適切な選択・購入および使用ができる(技術・家庭<家庭分野>) ○実践的な収支管理(修学旅行等)を行う	○家計の収支構造を理解する(家庭) ○現在の自分の生活や教育などのために支払われている費用を知り、家計全体を意識して自分にかかわる支出を考える態度を身に付ける ○長期的・計画的な資金管理の大切さを理解する(家庭) ○学校行事等を通して実践的な収支管理ができる
	資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する態度を身に付ける			○お金の使い方について自分なりの考え方をもち、意思決定する態度を身に付ける	○人には様々な価値観があることをお金の使い方を通じて理解するとともに、自分の価値観に基づき責任あるお金の使い方を身に付ける(技術・家庭<家庭分野>) ○効率、公正などの概念を用いてよりよい意思決定ができる(社会<公民的分野>)	○現代の消費生活の課題を認識し、消費者として適切な意思決定ができる(家庭) ○希少性、選択、トレード・オフ、機会費用、効率、公正などの概念を用いて、よりよい意思決定ができる(公民)
イ 貯蓄の意義と資産運用	貯蓄の意義を理解し、貯蓄の習慣を身に付ける	○こづかいやお年玉を貯めてみる	○貯蓄の意義を理解し、計画的に貯蓄する習慣を身に付ける	○将来何に使うかを考え、計画的に貯蓄する態度を身に付ける(家庭)	○継続して貯蓄・運用に取り組む態度を身に付ける(社会<公民的分野>) ○金利計算(複利)を理解する	○生涯を見通して資産形成を行う必要性を理解する(家庭) ○長期的に貯蓄・運用に取り組む態度を身に付ける ○期間と金利(複利)の関係を理解する(数学、商業) ○少額であっても定期的に貯蓄・運用し続けることが将来の備えとして有益であることを理解する
	期間と金利の関係、および貯蓄・運用を継続することの大切さを理解する			○金利計算(単利)などを通じて、主な預金商品とその利息の違いについて理解する		○預金、株式、債券、投資信託、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ(公民、家庭) ○資金運用については、自己責任のもとで金融商品を選択する必要があることを理解する
	金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で運用する態度を身に付ける				○金融商品には株式や債券などがあることを理解する ○リスクとリターンの関係について理解する ○お金を投資することの生活設計上の意味を理解する	○金融商品について、利益が出たり損失が出たりする特徴を踏まえて、リスクとリターンの関係について理解する(公民、数学) ○様々な金融商品に資金を分散するなどのリスク管理の方法について理解する ○金融商品については、目先の価格の動きに目を奪われず、長期的な視点から運用を考える必要があることを理解する ○どの程度のリスクをとることができるかは人によって異なることを理解する ○投資と投機、賭け事の違いについて理解する

A 生活設計・家計管理に関する分野 (つづき)

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
ウ 生活設計	生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる	○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をする大切さに気付く	○計画的にお金を使うことの大切さを理解し、実践する態度を身に付ける	○将来を考え金銭を計画的に使う態度を身に付ける(家庭)	○生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる ○よりよい生活を送るための様々な工夫について理解し、実践する態度と課題を解決する力を身に付ける(技術・家庭<家庭分野>)	○生涯収入や主な支出の内容について理解し、生活設計を立てる(家庭)
	生活設計に必要な様々な知識を身に付け、それを活用して自分の暮らしを考える			○国などの政治の働きの一つとして社会保障があることを知る(社会)	○ローンの仕組みと機能について理解する ○社会保障について、その基本的な内容を理解する(社会<公民的分野>)	○住宅ローンや貸与型の奨学金などのローンの仕組みを理解し、返済方法や金利、延滞時の影響について考える(数学、家庭) ○住宅等の実物資産は、利用などにより減価し、売却しにくいことを理解する ○年金や社会保障制度などを理解し、自分たちの暮らしの中での役割を考える(公民、家庭) ○景気や経済政策と暮らしとの関係を理解する(公民)
	生活設計と職業選択を関係付けて自分の将来を現実的に考える					○職業選択と生活設計を関連付けて将来の自分の姿について考える(家庭)
エ 事故・災害・病気などへの備え	日常生活における危険から身の安全を確保する方法を理解し、実践する	○身の回りの危険に気付き、安全に生活することの大切さを理解し、行動する(生活、道徳、特別活動)	○日常生活には様々な事故や災害、病気に見舞われる可能性があることを理解し、行動する(社会、道徳、特別活動) ○事故や災害の防止に関する人々の工夫や努力について理解する(社会)	○自分や家族が事故や災害、病気に見舞われると、生活に大きく影響することを理解し、自らも安全に行動する(社会、体育、道徳、特別活動) ○自然災害の防止への努力について理解する(社会)	○日常生活において様々なリスクが存在することを理解し、リスクを予測し判断して行動する(保健体育<保健分野>、道徳、特別活動) ○家族の安全を考え、家庭内の事故の防ぎ方、住まいの整え方について考え、工夫する(技術・家庭<家庭分野>)	○日常生活において様々なリスクが存在することを理解し、リスクを予測し制御して行動する(保健体育<保健>、特別活動)
	他人に損害を与える可能性を認識し、安全な行動を心掛ける		○日常生活の中で人にけがをさせたり、人の物を壊したりする可能性があることに気付き、注意する	○自転車の運転などを通じて、自分が人にけがを負わせたり、人の物を壊したりした場合の影響を考え、気を付けて行動する	○自転車事故などにより、人を負傷させたり、人の物を壊したりした場合には、加害責任を負い、弁償しなければならないことを理解する(保健体育<保健分野>)	○二輪車や自動車の運転に伴い加害事故を起こした場合には、責任や補償問題が生じることを理解する(保健体育<保健>)
	事故や災害、病気など不測の事態に備える必要性とその方法を理解する		○事故の防止や災害への備えが必要であることを理解する	○修学旅行などでの事故や病気に備えて、保険をかけていることを理解する ○不測の事態に備える方法として貯蓄以外に保険があることを理解する	○事故や災害、病気などのリスクや負担を軽減させるための手段のひとつに保険があることを理解する(社会<公民的分野>)	○病気や事故などのリスクが現実となった場合の家計の負担の大きさを認識し、リスク管理の方法を理解する(家庭) ○不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いを理解する ○社会保険と民間保険の補完関係を理解する(公民)